

### 3 「授業のデザイン」ってどんなもの？



自力で解決した後、小集団や全体で練り合う授業をしています。（5年経験者の声）

1時間の授業の中で、体験的活動を行ったり、自力解決や集団思考の時間を取り入れたりすることで、子どもたちは意欲的に学習に取り組みます。

では、教師は、どのように授業をデザインすればよいのでしょうか。

1時間の授業をデザインする上で大切なことは、まず単元目標の達成を目指した各時間のねらいを考えることです。それから、ねらいの実現に向けて指導内容に即した活動と、それに合った授業形態を組み立てます。

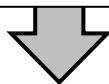


#### 授業構想

##### 1 1時間のねらいを基にして、まとめの段階の子どもの姿を想定する。

ねらいが実現された際に現れる子どもの姿を具体的に想定し、そこに至るまでに必要な活動を考える。

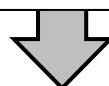
- ① 子どもが主体的に課題解決をするためのめあてを考える。
- ② めあてと整合性のある評価規準を考える。
- ③ 授業内容をまとめるキーワードを考える。



##### 2 子どもの思考や反応を予想し、それに対応して活動を組み立てる。

子どもの思考のつながりが停滞しないよう、教師の手立てを考える。

- ① 子どもの思考や反応を予想する。
- ② 教えることと、考えさせることをはっきりさせる。
- ③ 「十分満足できる」状況（評価A）と「努力を要する」状況（評価C）にある子どもについての手立て、また、「おおむね満足できる」状況（評価B）にある子どもを、「十分満足できる」状況に高めるような手立てを考える。



3 子どもに見通しを持たせる方法と振り返らせる方法を決め、教師の働き掛けを明らかにし、子どもの学習意欲の向上を目指す。

子どもが問題意識を持ち、それが連続発展するような「見通し」、学習の意味や価値に気づき、自分の学びへの手応えを得られるような「振り返り」の場を作る。

＜見通しを持たせる方法（例）＞

- ・自分のめあてや目標を書かせたり、発表させたりする。
- ・予想した事柄や解決の方法を発表し合って確認させる。
- ・既習事項などから、関係する内容を見付けさせる。

＜振り返らせる方法（例）＞

- ・学習したことを文章化させる。
- ・練習問題（類似問題、発展問題等）に挑戦させる。
- ・授業を振り返り、自分ができるようになったことや、新たな課題を見付けさせる。

授業展開

|     | 学習活動                              | 留意点                                | 確認してみよう！   |
|-----|-----------------------------------|------------------------------------|--|
| 導入  | ＜問題把握＞<br>＜予想＞                    | ・授業のねらいを明確に示す。<br>・授業の見通しを持たせる。    | <input type="checkbox"/> 具体的なねらいを板書しているか。<br><input type="checkbox"/> 学習内容に興味を持たせているか。<br><input type="checkbox"/> 問題を把握させているか。  |
| 展開  | ＜自力解決＞<br>＜集団思考＞<br>＜全体＞<br>比較・検討 | ・個人や集団の考えを深めさせる。<br>・適切な授業形態を工夫する。 | <input type="checkbox"/> 自力解決の場面があるか。<br><input type="checkbox"/> 集団思考の場面があるか。<br><input type="checkbox"/> 適切な発問ができているか。<br><input type="checkbox"/> 指導内容にふさわしい授業形態になっているか。  |
| まとめ | ＜集約＞<br>＜振り返り＞<br>考察<br>＜発展＞      | ・授業のまとめを行う。<br>・授業の振り返りを行う。        | <input type="checkbox"/> ねらいが達成されているか。<br><input type="checkbox"/> 適切な評価を行う場面があったか。<br><input type="checkbox"/> 思考の流れが一目で分かる板書か。<br><input type="checkbox"/> 指導内容の定着が図れているか。<br><input type="checkbox"/> 次時へつなげているか。 |

子どもに身に付けさせたい力は何かという指導のねらいを押さえ、授業展開を考えましょう。また、子ども自身が学びの意味やその授業のねらいを見いだしているかを把握し、指導を振り返りましょう。